

2026年版EDINETタクソミ(案)・2027年版EDINETタクソミ開発案意見票

意見者	日付	令和7年9月8日
	組織名	公益社団法人 日本証券アナリスト協会
	役職等	サステナビリティ報告研究会
	氏名	(連絡先:企業会計第2部長 土谷 敬)
	電話番号	03-3666-1200
	電子メールアドレス	kei-tsuchiya@saa.or.jp

次の件名及びファイル名で edinet.helpdesk@fsa.go.jp 宛てEメールで送信してください。

件名及びファイル名:【EDINETタクソミ意見】YYYYMMDD-意見者名
(例)【EDINETタクソミ意見】20250826-ABC(株)

1.2026年版EDINETタクソミ(案)
＜EDINETタクソミ及びサンプルインスタンス＞

No	箇所				意見内容
	タクソミ名、様式番号等	リンクベース名等	拡張リンクロール名、諸表名、科目区分等	テーマ	
1					
2					
3					
4					
5					

注)英語ラベルに関する御意見の場合、本意見票には意見者情報のみ記載し、タクソミ要素リスト、勘定科目リスト又は国際会計基準タクソミ要素リストに提案欄及びコメント欄を追加したものを本意見票に添付することも可です。

＜XBRL作成ガイドライン及びXBRL参考技術資料＞

No	箇所				意見内容
	ガイドライン名	該当ページ	章番号、図表番号等	テーマ	
1					
2					
3					
4					
5					

2.2027年版EDINETタクソミ開発案
＜2027年版EDINETタクソミ開発案(ISSBタクソミの導入)＞

No	意見内容
1	2027年版EDINETタクソミの開発案において、「②-1 インポート方式(間接併用方式)」を採用する方向性に賛同します。本方式は、ISSB基準とSSBJ基準に共通する開示項目についてISSBタクソミの内容を取り込み、日本独自の開示項目については、金融庁が独自のタグ付け項目を追加する構成となっています。 アナリスト・投資家にとって、開示データは、幅広く、定義が一貫し、かつ国際的な比較可能性が確保されていることが重要です。 有価証券報告書におけるサステナビリティ開示基準となるが見込まれるSSBJ基準は、「ISSB基準と機能的に整合した結果をもたらすように設計された」ものであり、SSBJ基準に基づいて開示されるサステナビリティ関連財務情報は、国際的ベースラインであるISSB基準に基づいて開示される情報と同等に、幅広く、定義が一貫し、かつ国際的な比較可能性が確保された内容となることが期待されます。 「②-1 インポート方式(間接併用方式)」により、EDINETタクソミにISSBタクソミを取り込むことで、日本企業が開示するサステナビリティ関連財務情報が、データレベルで国際的に比較可能なものとなることが期待されます。一方で、SSBJ基準には日本独自の開示項目も含まれていることから、本方式はそれらへの対応も可能とする柔軟性を有しています。 現状、多くのアナリスト・投資家は、情報ベンダーを通じて有価証券報告書のデータを取得の上、利活用しており、XBRL形式の生データを直接利活用するアナリスト・投資家は少ない状況です。有価証券報告書のサステナビリティ関連財務情報がXBRL形式で提供されても、当面は、現状と変わらない状況となることが想定されます。ただし、生成AIの利活用が進展することで、アナリスト・投資家がXBRL形式の生データを利活用する可能性が高まることも想定されます。そのような状況の下、タグ付けの国際的な整合性が確保されることにより、情報ベンダーが提供するデータの国際的な整合性が高まり、アナリスト・投資家が利活用しやすいデータ環境が整備されることが期待されます。 なお、提出者の負担や予算等の制約を踏まえ、ISSBタクソミのうちEDINETでの提出に必要なタグ付け項目については、優先度の高いものから順次開発を進める方針とされています。現実的な制約の下で段階的に整備されることはやむを得ないものと考えますが、開発の優先順位を具体化する際には、情報利用者であるアナリスト・投資家のニーズ(それらの多くは情報ベンダーを通じて述べられると思料します)や、欧州など他法域のデータ整備状況などを十分踏まえることを要望します。
2	
3	
4	
5	